

千二百六十九年にはベーター。アジーガーがライデン大學の記録に磁針の北極が東へ偏ると云ふ現象を載せて居ります。

次に話しはコロンブスの亞米利加發見の時代になるのであります。ワシントン、アービングの書いたコロンブス一代記に據ると次の様な記事があります。

千四百九十二年九月十三日の夕方フェロ島(カナリー群島の一部)から約六百哩の地點ではじめて磁針の變差に氣付いたがこんなことは今迄少しも氣にきめて居なかつた。日暮方彼は磁針が北極星を指すべき筈なのが半點ばかり北西に偏れて居るのを認めた。翌朝はその偏れが益々大きくなつて居つた。こゝに於てコロンブスは三日間非常に注意深くこの現象を観測したが船の進むに従つてこの偏れの角が増加する事を發見した。彼は船員共が驚く事を怖れて誰にも云はなかつた處が水先案内が間もなく之に氣付いて喋つてしまつたので船員共は非常に驚愕した。彼等の進むにつれて宇宙の法規が徐々變化しつゝあるのではないかと思つた。そして彼等は他の不可解な影響を受ける世界に入りつゝあるのかと思つた。彼等は羅針盤がその神秘的な機能を失はんとする事を怖れた羅針盤なかりせば此の涉茫として道なき大洋の中央で何に出遇ふかもしれないと思つても見た。そこでコロンブスは彼等を宥めつゝ云つた。磁針は他の天體と等しく極の圍りを一日一周するものである。

彼が大西洋を横斷して歐洲から亞米利加へ行く間に磁針の偏差が北東から北西に變化した事を見出した。而して彼は天體觀測によつて磁針が眞の北極を指す地點を決定した。これはホルボ島(アゾレス島の一部)の東二度半計りの處であつた。彼は如斯唯一點で觀測したのみであつたが同じ子午線上の點では偏差がいつも等しくなると假定したと同時に兩極の間は偏差の零なる線で結ばれて居るものと思像した。

もしこの變差がコロンブス時代以前に知られて居たものとしても彼は一般の注意を喚起した第一人者であつた。(此項未完)

## 前號大正十一年七月四日の 強雨に對する補足

拔山大三

先月號に大正十一年七月四日五日の強雨として發表した事實は既に高山四郎氏が神戸讀書會報第一號に發表された事である事を後で聞いて増々其の事實のある確信を得た其の中に三つ型式が上げてある一つは平行等壓線で雨が降るとき次は支那から高氣壓が離れて來て其の後部で降る雨最後が純粹に高氣壓内で降つた雨で最後のは一つしか例が無いと書いてある。又鞍狀高氣壓部でも降るとしてある。

何れの場合でも前號に掲げた説明で十分満足されるものばかりで何れにしても降雨の源因に就いては其の考へ方を廣めるか正すかせねばならぬ事と思ふそして氣象學の研究は地上に於けるものばかりで無く上層及び中層太氣の研究の必要である事を痛感する。

## 紹介

### 飛行家に對する氣象學課程

ウイルス、レー、グレッツグ